

復興 グルメで後押し

A M D A 津山の団体も応援
宮城で企画



「復興グルメF-1大会」が開かれ、にぎわう気仙沼復興商店街南町紫市場＝20日、宮城県気仙沼市

東日本大震災で被災した仮設商店街の自慢の一品からナンバークンを決める「復興グルメF-1大会」が20日、宮城県気仙沼市の気仙沼復興商店街南町紫市場で開かれた。

被災地で支援活動を続ける国際医療ボランティアA M D A（岡山市北区）が企画。「大槌めかぶシフォンケーキ」（岩手県大槌町）やワカメご飯にホタテ一個を丸ごとつけた「雄勝丼」（宮城県石巻市）など岩手、宮城

の観光客や地元住民は、投票用の割り箸を片手に、1皿300円でご当地の味に舌鼓を打った。おおふなど夢商店街（岩手県大船渡市）の及川広昱さん(56)は「お客さんの評判は上々で今後に弾みがついた」と喜んだ。

投票の結果、サンマの甘露煮と野菜を薄焼きしたパン生地で巻く気仙沼復興商店街南町紫市場の「気仙沼サンマティーヤ」が優勝した。

ホルモンうどん」（津山市）も応援に駆け付け200食を販売。A M D Aは新庄村のアヒル「のどろダック」の肉を使った汁を振る舞った。

過去4回、福島、宮城県で炊き出しをしたという津山ホルモンうどん研究会の河原大輔さん(31)は「ゆっくりとしか復興が進まない中、商店街の皆さんからは『何かしなければ』という意気込みを感じた。今後も継続的に支援をしたい」。A M D Aの大政朋子さん(40)は「約1500人が訪れ盛況。参加団体の多くが『次は自分の地元でやってほしい』と言ってくれたのが印象的だった」と話していた。